

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
31	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Patterns of alcohol dependence in Thai drinkers: a differential item functioning analysis of gender and age bias. タイ人におけるアルコール依存のパターン：性と年齢バイアスの差異項目機能分析	
執筆者	
Srisurapanont M, Kittiratanapaiboon P, Likhitsathian S, Kongsuk T, Suttajit S, Junsirimongkol B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addict Behav. 2012;37:173-8.	
キーワード	
年齢、アルコール依存、基準、差異項目機能、性、年齢	
要 旨	
<p><b>背景：</b> 白人においては、女性および青年期のアルコール依存症は、男性および成人のそれとはそれぞれ異なるようである。</p> <p><b>目的：</b> 東南アジア人であるタイ人一般住民において、アルコール依存症の男女差および青年成人の差について分析を行った。</p> <p><b>方法：</b> 差異項目機能分析(DIF) のため、2つの指標を用いたロジスティック分析である、IRT log-likelihood-ratio (IRTLLR) 分析を行った。対象者は 2008 Thai National Mental Health Survey 17,140 人のうち、飲酒者 3,718 人とした。アルコール依存の 1 年有病率は女性 1.4%、男性 13.7%であった。The Mini International Neuropsychiatric Interview (MINI)、アルコール依存、アルコール乱用に基づいて、全ての飲酒者は 7 つのアルコール依存基準それぞれについてはいいえ形式で面談された。因子分析よりアルコール依存基準の単一因子モデルを提案した (<math>\chi^2=211.51</math>、RMSEA=0.06、SRMA=0.03、CFI=0.96)。</p> <p><b>結果：</b> 3,174 人の男性と比較して、544 人の女性では quit/control problem の閾値推定が有意に高く、drinking despite physical/mental problem の閾値が有意に低かった (8 パラメーターの差はそれぞれ 0.25 および-0.30)。タイの青年 272 人と成人 3,446 人において、全ての基準における DIF に統計学的有意差は認めなかった。飲酒に費やす時間の基準については、男女および青年成人において、有意差を認めた (<math>\alpha</math> パラメーターは 2.50、2.08、2.33 および 2.16)。</p> <p><b>結論：</b> アルコール依存における性バイアスはタイ人でも認められる可能性がある。飲酒に費やす時間は性、年齢間のアルコール依存の重症度を区別する最も有用な基準かもしれない。</p>	